

「なんかちよつと……」「そうきたか！」の循環

神戸親和女子大学教授 齋藤隆彦 さいとう たかひこ

1 指導の意図

「語彙の豊かさ」は、単に「語句の量が多い」ことは少し違います。「語彙」とは「言葉の集まり」のことです。例えば、色彩語彙。色名を多く知っているだけでなく、「やや赤みを帯びた明るい紫」を「オーキッド」、「暗い緑」を「橄欖色」などと、眼前のさまざまな色をピタリと表現できてこそ「色彩語彙が豊か」といえるのではないでしょうか。

石黒圭は、「語彙力Ⅱ語彙の量(豊富な語彙知識)×語彙の質(精度の高い語彙運用)」と論じています(※)。ピタリと表現できるよう「語彙を豊か」にするには、「語句の増量」を目ざして、既成の言葉を学ぶ必要があります。けれど、世界の事象は多様。有限の言葉の収集に加えて、「言葉の再活用能力」も、語彙指導の範囲に入りたいと、私は考えます。前述の色彩語「オーキッ

2 表現の可能性を意欲する

あるコト(モノ・感情など)をピタリと言い表すためには、ひとまず浮かんだ自分の言葉に「ピタリかな?」「なんかちよつと……(違つかない)と思うことが大事です。言葉の選択を意識し始めると、誰かの言葉が自分の選択肢を超えていることにも気づけ、「そうきたか!」と思えます。そんな「そうきたか!」によって表現の可能性の広が

りを知り、別の何かを表現するときも、「なんかちよつと……」と考え始める……。そんな循環が生まれれば、語彙が充実していくはずです。ここでは、私の中学校現場での実践から、五つのアイデアを紹介します。

①「一言自己紹介」

入学直後の自己紹介から、「無難な選択」「選択を意識しない選択」ではなく、「なんかちよつと……」を引き出す活動を組みます。授業冒頭に毎回「一言自己紹介」の時間を設け、クラス全員に、自分の名前とその日のテーマに沿った自己紹介の内容(単語)を発表させました。テーマは、「出身小学校」などの負荷の低いものから始め、「好きな食べ物」などへと広げていきます。「好きな食べ物」では、「ラーメン」「寿司」などが挙がるなか、ある生徒が「湯葉」を挙げました。「無難な選択」ではない言葉に、「何それ?」と、教室内は盛り上がりました。

⑤プレゼンテーション演習

学年後半では、全員によるプレゼンテーション演習を行いました。テーマは、「好きなモノ・コト」「おすすめの物語」などです。ここまでの実践によって、「なんかちよつと……」と思索し、「そうきたか!」と選択の可能性の広がりを意識するようになっていけば、生徒たちは発表内容や方法の工夫を楽しみます。発表では、テーマに応じた内容を各自の「語彙」を用いて披露するようになります。例えば、文学について語る語彙としては、「RADWIMPSの世界観が好き」「くまのプーさんは、解釈によっては……」「あの作品のオマージュ」などの言葉が聞かれました。友達への発表が刺激になり、さらに言葉の選択が磨かれます。

3 おわりに

新学習指導要領では、学び手が自ら学び成長することがますます求められます。「語彙の充実」も、教師が語彙リストを与えるより、生徒が「なんかちよつと……」と思索し、「そうきたか!」と感嘆して共有を楽しむ、自身の語彙を充実させていく。そんな方向にいざなうべき、と思うのです。

この日、「湯葉」を知り、「おいしそう」と感じた生徒の「食べ物語彙」には、この言葉が加わったでしょうし、何より「選択のおもしろさ」を知る機会となりました。

②韻文の空欄埋めで試行錯誤

■「() をしても一人」
括弧内にピタリとくるものを考えさせます。生徒からは、「おにごっこ」「あやとり」や、「鍋」も挙がりました。その後、尾崎放哉の俳句を教え、「確かに寂しい」「心細そう」などと鑑賞しますが、「咳」が唯一の正解と教えるのが目的ではありません。ピタリとくる言葉をあれこれ考えること、「そうきたか!」と選択の幅を広げること、「鍋」「咳」などを「一人だと寂しいこと語彙」に加えることなど経験させたいのです。

■「街をゆき子供の傍を通る時」

() の香せり冬がまた来る」
こちらも同様に問います。生徒からは、「ストーブ」「灯油」「こたつ」、そして「たんす」という言葉まで出てきました。「初冬のセーターの匂い」とは「そうきたか!」です。もちろん、原典である木下利玄の短歌と同じ「蜜柑」も挙がりました。「初冬の子どもの匂い」について思索し、誰かの考えに「そうきたか!」と感嘆すること

「冬の匂いを表す語彙」が充実する。「季節の匂い」という新しい語彙も意識され始めます。

③「知ったかぶり」を共有

地元大学の先生方による中学生向けミニ講義を、生徒はそれぞれの講座に分かれて学びました。せっかくなので「知ったかぶり」で講義内容の説明を書き、読み合う活動を組みました。「古事記」「地方自治」「高分子」などについて、当然、専門用語を使うのですが、言い換えたりたとえたりもしつつ書いた文章を学級で共有しました。大人の語彙を背伸びして使うことで、自身の枠を拡大する感覚を経験できる学習です。

④「学ぶ価値ある四字熟語」を持ち寄る

授業冒頭の漢字学習での実践です。「みんなが学ぶ価値のある四字熟語を募集」と題しました。生徒全員が、好きな四字熟語を一つ選び、読み方・意味・使い方を調べて書いてくるのです。それを集めて作った「教材」を、みんなで覚えていきます。出てきた熟語は、「魑魅魍魎」「刻苦勉励」「融通無碍」「一意専心」「啁啄同時」などなど多様で、学習後、日記や作文を書くときに使う生徒の姿も見られました。